

堀岡 敏喜 議員 公明党



問 教訓活かし防災先進地を目指せ

答 災害予防と自助啓発に全力

問 自主防災組織の現状と課題は。

答 **市長** 現在、72地区中60団体の設立である。

設立を急ぐあまり形に拘ってしまつたのが反省点。

今後は、行政から積極的に出向き、地域の実情に沿つた支援に努める。

問 「火を消すこと」よりも「火を出さないこと」、「閉じ込められた人を救う訓練」も大事だが「閉じ込められないようにする訓練、対処」が大切ではないか。

答 **総務部長** 災害前後を想起し、様々な場面での訓練が必要。市民に対し、発災前の予防啓発をさらに進めていく。

問 発災前に取り組むべき災害予防訓練と、発災後の対処訓練、さらに直下型地震、津波を伴う海溝型地震、台風、豪雨など災害別に行動選択する訓練も加え、公助で行う自助啓発は、「ここを市民と共有すべきと考え」るが市の認識は。

答 **総務部長** 今後はコミュニティ単位になるが、どんな訓練が必要か、意見交換を行いながら訓練を実施し、自助啓発に努め、災害行動に対する共有を図っていく。

問 人材のすそ野を広げよ

答 防災のあり方を見直す

問 通り一辺倒な講話だけでなく、年代、ニーズに合わせ、取り組みやすいよう出前講座の充実を計るべきでは。

答 **総務部長** ニーズに沿つた出前講座を行っていく。

問 人材のすそ野を広げる自助啓発を基礎として、ルール（※図参照）を共有し、それをグループワーク訓練に活かすことで、互助共助を養成していく、そのための環境、機会の提供、きっかけ作りが現代の公助として必要ではないか。

答 **総務部長** 市で開催したワークショップにおいて、地域では様々な考えがあることを認識した。今後、防災会の全体会で共有し、共に研究していく。

問 「住んでよかった、住み続けたい街」と思えることが、目指すべき防災先進都市・弥富市だと考える。市の見解は。

答 **市長** 過去の災害を教訓とするためにも、市と自主防災会のあり方をリセットし、連携を密にして減災に取り組んでいきたい。新年度には東松島市に職員を派遣する。そこから得られる情報を基に防災のあり方を見直していきたい。

ワークショップ等で共有すべき基本のルール + α

- 判断遅延** 1. ネガティブな判断を遅延しよう (否定・断定をしない)
- 突飛さ歓迎** 2. 突飛なアイデアを歓迎しよう (自由奔放に考える)
- 質より量** 3. 質にこだわらずたくさん出そう (大量に発案しよう)
- 他の人に便乗** 4. 他の人に便乗しよう (既出アイデアを活用して改善バージョンを作る)

大人のルール α. 説教しない! 同意を求めない! 評価しない

アレックス・F・オズボーンのブレインストーミング法、4つの基本